

クラス番号	312	担当教員名	小林勇人
		他専修学生受入上限人数	2名
テーマ	労働と社会保障を繋げて、平等な社会を構想する		

ゼミナール概要

◆目的、内容、方法等：

本ゼミの目的は、労働やケアや貧困などの社会問題に対して、個人の「努力」や家族の「助け合い」に帰責するのではなく、どのように社会が責任をもって応答していくのかを考えることです。

経済的社会的な変化と少子高齢化のなか、健康や生活時間を確保し公正な待遇を目指す「働き方改革」と、現役世代の給付を拡充する「全世代型社会保障」の改革が実施されています。けれども、労働問題は増大し、依然としてケア負担は重いまま、格差が広がっています。

これに対してゼミでは、労働と社会保障を繋いで、社会のより良い仕組みを考えるという方法をとります。たとえば、生活保護受給者やシングルマザーや障害者が、働きやすく暮らしやすい社会にするためには、どのような所得保障やサービスが必要かを考えます。そして、平等な社会のあり方について考えます。

◆授業計画：

（3年生）

前期 政府刊行物の検討やフィールドワークを通して、各自の研究テーマを選択する

後期 文献研究と個人発表を通して、各自の研究テーマを具体化しつつ中間レポートを作成する

（4年生）

前期 就職活動の状況に合わせながら、卒論の準備を行う（希望に応じてエントリーシート・面接対策の実施）

後期 卒論を完成させ発表する（希望に応じて社会福祉士国家試験対策の実施）

◆担当教員：

研究課題：欧米の社会保障・労働市場改革の分析と日本への含意

著書：2010『アメリカ・モデル福祉国家Ⅰ』（共著）、2012『労働と生存権』（共著）、2012『福祉政治』（共著）、2013『公共性の福祉社会学』（共著）、2014 *Basic Income in Japan*（共著）、2020『ホームレス経験者が地域で定着できる条件は何か』（共著）

担当教員からのメッセージ

①労働について問題意識や権利意識を高めることは、将来どの分野で働く場合にも役立ちます。

②社会保障を学ぶことは、転職や休職する場合、また労働困難な場合に、重要な知識を与えてくれます。

③労働と社会保障を繋げることは、自分と他者が共に生きやすい社会を創る力を養ってくれます。

大学のゼミは、人生のなかでも最も真剣に学問をする時間と仲間を得る機会となるでしょう。レクやコンパも織り交ぜながら、楽しいゼミにしていきましょう。